

# 教職員養成・育成だより 第47号



これまでの「大学連携だより」を、第41号から「教職員養成・育成だより」として名称変更し、大学連携の情報に加え、教職員の研修等の様子についてもお伝えしています。

令和3年3月23日発行  
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

## 令和3年度 教職員研修の方向性～校内における人材育成の推進

教職員育成課  
課長 山本 朝彦



例年、年度末に実施してきた管理職対象の「研修説明会」ですが、コロナ禍で実施が難しいため、今年度は「説明動画」の配信を行います。動画では、管理職が自校での人材育成をより強く推進していくことができるようにするために、来年度、どのような研修が行われるのか、どのような目的で行っているのかについて説明しています。

令和3年度の研修についての基本的な考え方については、昨年度同様できるだけ悉皆研修を減らし、選択研修を充実させていきます。新型コロナウイルス感染症は研修の在り方を大きく変えました。今後の研修の形態は、場所や時間を選ばないeラーニングやZoomなどのオンライン研修と、集合し対面することでより効果が期待できる研修との組合せが中心になります。

次に、昨年度改訂した人材育成指標の基本的な考え方について説明します。教職員の人材育成や不祥事を防止するためには、自律した大人、自律した社会人を育てることが欠かせません。そこで、教職員一人ひとりが主体的に資質・能力を向上させるためのセルフマネジメントの考え方を大切にしていきます。

横浜市の教職員は数年後にはベテラン層の減少、経験が均一ではないミドル層の増加が見込まれ、今後は一層個々のニーズや成長に応じた研修機会の保障が必要となってきます。教職員にとって、研修はやらされるものではなく、勤務時間中に行える権利でもあり、教職員という仕事の資質を磨き続けるための義務でもあります。ぜひ、右ページに記載している新しくなった研修管理システム「Leaf（リーフ）」を活用して自己の資質能力を自己分析し、自己の課題や長所と向き合い、さらに学びたい力を自ら判断し、選択する経験を重ねていただければと思います。教職員育成課の研修も花咲研修室に集合して知識を伝達するだけではなく、各学校で行う研修のサポートや学校へ訪問しての相談機能の充実、各学校で行う研修の教材提供などに力を入れていきます。また、研修の報告書や資料についても簡素化し、ペーパーレスやICT端末の活用を進めていきます。それぞれの研修について、ご相談やご提案があれば、ぜひ教職員育成課までご連絡ください。

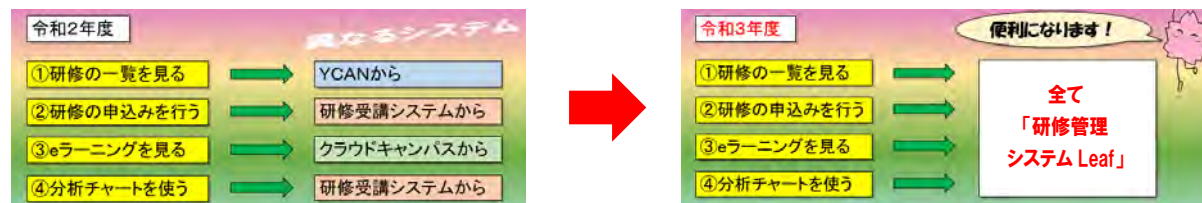
年度末のお忙しい中のお知らせ、お願いで恐縮ですが、それぞれの研修の内容や変更点、来年度の計画については、ぜひ今回の説明動画をご活用していただき、各学校の教職員へ周知をお願いいたします。

これからの横浜の教職員の育成は、各学校の研修と教育委員会事務局が共同で行っていくことが欠かせません。ぜひ、今回の趣旨をご理解いただき、教職員の育成に取り組んでいただければ幸いですようよろしくお願いいたします。



## 「研修の申込み」「eラーニング」のシステムが変わります！

令和2年度は、用途により異なるシステムを使用していましたが、令和3年度からは、「①研修一覧を見る」「②研修の申込みを行う」「③eラーニングを見る」「④分析チャートを使う」の4つの機能がすべて一つのシステム「研修管理システム Leaf」上で行えるようになります。

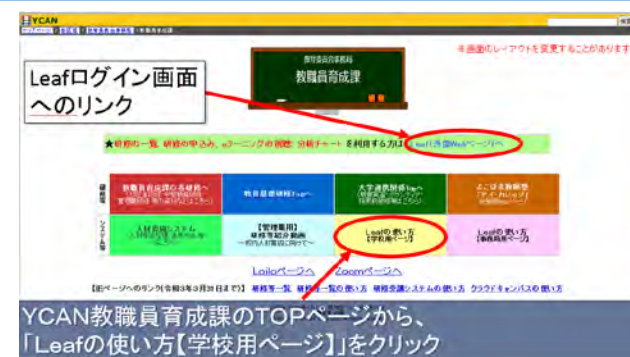


### YCAN教職員育成課のトップページから

「研修管理システム Leaf」のログイン画面へリンクしたり、「Leaf」の使い方を見たりすることができます。

「Leafの使い方【学校用ページ】」をクリックすると、説明動画を視聴できます。

※「Leaf」は4月1日から利用できます。



## ★★★アイ・カレッジ コーナー★★★

緊急事態宣言下において、アイ・カレッジの活動も花咲研修室に集合して学ぶことはできませんでしたが、「どのような状況においても学びは止めない！」を合言葉に、塾生はZoomやロイロノート、eラーニングを活用しながら、教師を目指し、努力を続けています。

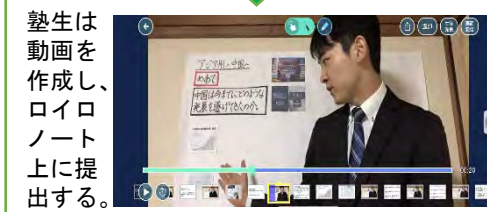
模擬授業も、集合し、対面で行うことはできません。しかし、右のようなステップで、授業動画を作成し、同じグループの塾生が事前に動画を視聴した上で、授業研究会を行いました。評価票をもとに、授業を視聴することで、目指す授業像を明確にして、討議することができました。また、ロイロノート上で授業を何度も視聴することができるので、「この塾生の導入の仕方は参考になるよ」「自分は中学校だけど、小学校を目指している塾生の授業を見ることができてよかった」といった情報を塾生間で共有し、学びを更に発展させることができました。

今学んでいる塾生が教壇に立って授業をする頃には、このようにICTを効果的に組み合わせ、活用することがあたりまえになっているかもしれません。対面で学べなかったからこそ、気付けたことも多くありました。

最後になりましたが、コロナ禍においてもアイ・カレッジ塾生を快く受け入れてくださり、充実した教師体験プログラム（KTP）を展開してくださった多くの受入れ校のみなさま、誠にありがとうございました。次号は、KTPで学ばせていただいたこと等の特集します。

塾生は、学習指導案を作成し、ロイロノート上に提出する。

指導教官・指導主事は学習指導案を添削し、塾生に返却する。



塾生・指導教官・指導主事は評価票に基づいてグループ分の動画を視聴する



# 教職員養成・育成だより 第46号



これまでの「大学連携だより」を、第41号から「教職員養成・育成だより」として名称変更し、大学連携の情報に加え、教職員の研修等の様子についてもお伝えしています。

令和3年2月15日発行

横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

## 「横浜市におけるGIGAスクール構想に向けて」説明会開催

1月14日（木）に、「横浜市におけるGIGAスクール構想に向けて」の説明会を西公会堂及びZoom配信にて実施しました。本説明会は、初めての集合・オンラインのハイブリッドな研修スタイルでの実施となり、西公会堂には100名以上の管理職及びICTの実務担当者の方々が集い、Zoom配信では、400人を超える教職員の方々が視聴しました。

説明会への参加方法は、①早めに会場に入りeラーニングを視聴する方法と、②事前に学校でeラーニングを視聴し、第一部から合流する方法の2通りから選択できるようにし、業務の状況に合わせて参加できる「教員基礎研修」と同様のフレキシブルな形態にしました。

第一部は、情報教育担当から、①今後のハード面、ソフト面の整備におけるスケジュール、②G suite アカウントの配付について、③情報セキュリティに関わることについての説明を行いました。

第二部は、横浜市におけるGIGAスクール構想の推進により、児童生徒が一人一台の端末を日常的に活用するようになると、横浜市の教育はどのように変わっていくのか、どのようなことを大切にしていけるべきなのかを、動画や各校種の先進的な事例をもとに発信しました。これまで以上に多様性を尊重しつつ、児童生徒を誰一人取り残すことのないよう、「個別最適な学び」と社会とつながる「協働的な学び」の実現を目指していくことを大きく宣言するとともに、情報活用能力の育成と情報モラル教育の推進、個人情報保護等の人権への配慮に関し、常に忘れず取り組んでいくことを共有することができました。

これから4月に向けて、加速度的に準備が進んでいきます。教職員育成課では、教職員の「ICT活用指導力」を向上させるために、積極的に研修等への参加を促していきます。また、研修体系を分かりやすくまとめた冊子「ICT活用指導力向上のための研修ガイド」を各校に一冊配布し、さらにその概要をまとめたリーフレット「ICT活用指導力向上のための研修navi」(右図)も作成し、4月以降に全教職員へ配付する予定です。



## ★★★後期（11～15年）中堅教員研修★★★

後期（11～15年）中堅教員研修は、第1回・第2回がeラーニング研修となり、第3回（閉講式）はZoomによるオンライン研修となりました。受講者530人を3回に分け、当日の研修をスムーズに行うために、事前に接続確認の日を設けました。それにより、各自がオンラインの接続状況やZoomの使い方を理解した上で参加したため、当日は問題なく研修を行うことができました。研修では「ブレイクアウトセッション」で、①今年度の取組と振り返り、②ミドルリーダーとしての今後の姿についてグループ協議を行いました。

グループ協議では、自校の実態やミドルリーダーとしての各自の取り組みなどについて、オンラインでも活発な協議を行っていました。最後に「5年後のありたい姿」を考えて、画面上でも共有することができました。

受講者からは「グループトークを多く設けていただき、他校の実態を知ることができ、パワーが出ました」「eラーニングとは違い、顔を見て話すことができ、とても勉強になりました」などの振り返りがありました。今後も効果的な研修になるように、内容や方法を考えていきます。

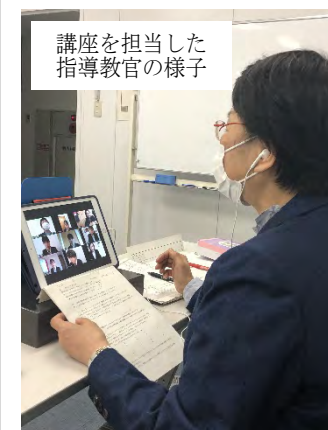


## ★★★アイ・カレッジ コーナー★★★

1月16日（土）第9回目のアイ・カレッジを、Zoomによるオンライン開催という形で実施しました。この日は、児童生徒とのよりよい人間関係を築くためのコミュニケーションの在り方について「言葉のキャッチボール」という視点で考える講座、学校事故を未然に防止するための危機管理意識を磨く講座、の2講座を午前グループ、午後グループに分かれて実施しました。



ブレイクアウトルーム 討議の様子



講座を担当した 指導教官の様子

12月20日以降、塾生とは対面で交流することができず、メール等での連絡を交わすのみだったので、画面越しに塾生の元気そうな姿を確認する場面や指導教官と久しぶりの対面場面では、画面いっぱいに笑顔が広がりました。講座の中では、活動班ごとに分かれて討議を行いました。事前課題として自分の意見をしっかり整理していた塾生も多く、途切れることなく意見交換することができました。

しばらくこういった状況は続きそうですが、この日に塾生と確認したことは「どのような状況にあっても、自分たちの学びは止めない」「今、この時だからこそ学び続けることが大切」ということです。引き続き、eラーニングやZoomでのオンラインによる開催を、状況や講座内容に応じて検討しながら、教職の素地となる資質・能力の養成を進めていきます。



# 教職員養成・育成だより 第45号

これまでの「大学連携だより」を、第41号から「教職員養成・育成だより」として名称変更し、大学連携の情報に加え、教職員の研修等の様子についてもお伝えしています。

令和3年1月7日発行

横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

## 教育実習の実施の御協力ありがとうございました

今年度の教育実習は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組の中で実施するという異例の事態となりました。各学校にはそのような状況の中、スケジュールの調整や内容の工夫を行いながら実施の御協力をいただきました。実習校の先生方におかれましては、御多用の中、後進の養成に御尽力いただき、心より感謝申し上げます。

何名かの校長先生とお話をしたところ、「実施するのは大変だけど、教育実習を行わずに本市に着任したら、その人も、赴任先の学校も困りますよね。」とおっしゃっていました。このような大変な時期であっても、本市には、「みんなで横浜市全体の将来のことを考えていこう」という強い結びつきがあるのだと感じた瞬間でした。



(右面に続く)

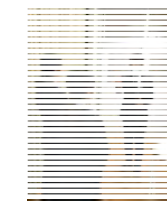
## ★★★アイ・カレッジ コーナー★★★ ～教職の素養講座～

アイ・カレッジでは、自己研鑽に努め、向上心をもって学び続ける姿勢を大切にしています。そのため、卒塾時に目指す姿に向かって、何を、どのように積み重ねていったらいいのか、塾生は自分の課題をしっかりと把握し、その課題をクリアしていくための具体的なアクションプランを作成し、着実に学びを積み重ねています。11月29日と12月6日には、担当する教官が塾生一人ひとりと面談し、アクションプランに基づいた取組についてアドバイスをしたり、それぞれの思いや悩みを受け止めたりするなど、これからの学びを更に充実させるための支援を行いました。12月13日には、各自が作成してきた発表シートを使って、前期の取組を振り返り、成果と課題についてプレゼンテーションを行いました。教職の土台となる「素養」は、一朝一夕には身に付けられるものではありませんが、今後、講座での学びの質を高め、教師を目指す「わたし」自身を磨き、高めていけるよう指導、支援をしていきます。



## 寺尾小学校での教育実習の様子を拝見！

寺尾小学校では今年の5月の休校期間から、新たな保護者へのコミュニケーション手段としてメール連絡網サービスを使い、毎日のように学校の様子や休校期間のメッセージなどを配信しているそうです。教育実習の様子も校長先生自らが発信しています。その一部を紹介します。



北村 高則 校長

校長室

実習前半

教育実習生が、様々な学年の師範授業を参観しています。教育実習の目的は「小学校教育の実際にふれ、教職への自覚を高める」です。

実習生の指導を通して、学校や教職員自身が成長する機会と捉え「人を育てる、自分も育つ」教育実習を行っています。「やってみせ 言って聞かせて させてみて ほめてやらねば 人は動かじ」



校長室

実習後半

教育実習生の研究授業の様子です。少し緊張しながらも、教える内容を考え進めることができました。また、引き続き様々なクラスの授業を参観して、良い所を見て学んでいます。

これからも、授業について教材を研究し、子どもたちにとって分かりやすい授業を目指してほしいと思います。そして、すべての教職員が「教えるプロであると同時に、自ら学ぶことのプロ」として、学び続けて欲しいと願っています。





# 教職員養成・育成だより 第44号



これまでの「大学連携だより」を、第41号から「教職員養成・育成だより」として名称変更し、大学連携の情報に加え、教職員の研修等の様子についてもお伝えしています。

令和2年12月9日発行  
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

## 教員基礎研修 集合研修型を学校で実施!

能見台南小学校 研修テーマ **教育的ニーズに対応した指導・支援**

～特別な支援を必要とする等、多様な子どもたちへの指導・支援に関すること～

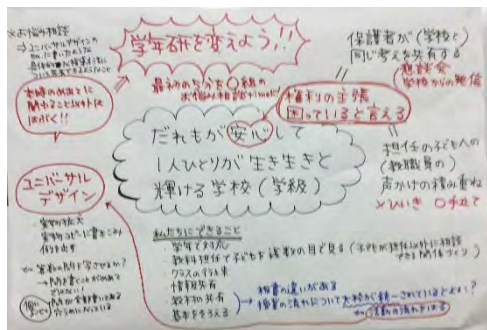
今年度開設した「教員基礎研修」は、全ての教員が、自分が学びたい内容について、状況に応じた受講の形態で学べるフレキシブルな研修です。A集合研修型、B通信教育型、C校内研修型、D疑問解消型の4種類から選択できます。

理由② 内容を選べる



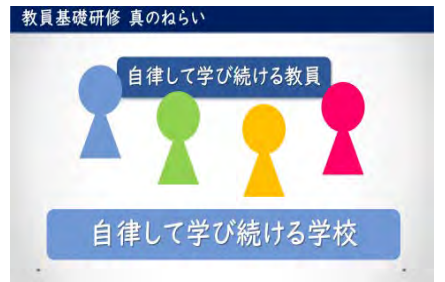
能見台南小学校の馬場副校長先生から「10月開催の第3回集合研修のテーマ『教育的ニーズに対応した指導・支援』が、校内の教員が今最も資質・能力の向上を目指したい要素なので、全教員で集合研修に参加したい。」という御相談がありました。そこで、教職員育成課から指導主事・指導教官が能見台南小学校に訪問し、教員基礎研修「A集合研修型 訪問スタイル」を実施しました。

当日は、指導主事・指導教官が、6時間目の授業における子どもたちと先生方の様子を参観した後、家庭科室で全教職員参加の研修を行いました。花咲研修室での研修と同様に、事前に各自でeラーニングを行っていたので、集合すると、指導主事の短時間のオリエンテーション後、すぐに協議をスタートでき、一人ひとりが語る時間を十分にとることができました。



グループ協議は、経験年数別5グループに分かれ、指導教官・指導主事がファシリテーター兼指導助言者として進行了。それぞれが意見、疑問、悩みを出し合い、対話の中から様々な学びがあったようです。最後は各グループの発表を行い、それぞれのステージごとに、悩みや今後にかかそうとする具体が異なっていることに気づく等、お互いのことをよく知る貴重な機会になっていました。

まとめとして、高橋校長先生から「今後も学び続ける学校でありたい」というお話がありました。このメッセージは、教員基礎研修「訪問スタイル」を通して、教職員育成課が最も伝えたいことでした。今回の研修にとどまらず、今後、学校として資質・能力の向上を目指すテーマを見つけ、教員基礎研修のシステムを活用して、学び続けていただきたいと考えています。



「自ら学び続ける教員・学校」を目指して、「教員基礎研修」を御活用ください!

～能見台南小学校 研修受講アンケートより～



○事前eラーニングしておくことで、話し合いの時間が十分取れて、活発な意見交換ができました。○ファシリテーターのおかげでグループが一体となって話し合う充実した時間を過ごせました。○日頃ゆっくり語り合う機会がないので、ありがたかったです。○自分をもっと高めていきたいと思いました。○周りの先生達も同じようなことに悩んでいることがわかり、心がスツとなりました。○自分が今後やるべきことが具体的にわかり、明日からの活力につながりました。○今日話し合ったことをすぐに実行したいです。

※第4回集合研修型【12月23日(水)「児童生徒理解」～こどもとのキャッチボールはうまくいっていますか?～】は、現在申込受付中です。御参加お待ちしております!

YCAN 簡易集計から <http://ky-chosa.office.ycan/enquete/06/public/index.cgi?serial=335>

## ★★★アイ・カレッジ コーナー★★★

授業力講座 ～初めての模擬授業～ (11月26日、12月6日)



今回の模擬授業では、教科化された道徳の授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための板書や発問について考えたり実践したりすることを中心に、これからの授業づくりや授業を観る視点をより明らかにしようとしました。一人10分という短い時間でしたが、事後の討議では忌憚のない意見を出し合うことができ、今後の授業に向けての課題をつかむことができました。特に、指導内容

や方法だけでなく、指導者の表情、声の大きさや抑揚、発言の受け止め方など、「隠れたカリキュラム」に関わることもこれからの子どもが主体となる授業づくりにかかせないことを学ぶことができました。

今後も「主体的・対話的で深い学び」をすべての教科の授業場面で実現するためのポイントを学んだり、小学校は国語や社会科、中学校は各教科の模擬授業を実践したりするなどして、授業力の基礎を身に付けていけるようにします。





# 教職員養成・育成だより 第43号



これまでの「大学連携だより」を、第41号から「教職員養成・育成だより」として名称変更し、大学連携の情報に加え、教職員の研修等の様子についてもお伝えしています。

令和2年11月24日発行  
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

## 教員基礎研修「集合研修型」追加開催決定！

### 第4回のテーマ 児童生徒理解

～子どもとのキャッチボールはうまくいっていますか？～



今年度9月に開設した、「教員基礎研修」は全ての教員が受講できる「新しい学びの場」です。この研修は、自分が学びたい内容について、状況に応じた受講の形態で学べる、フレキシブルな研修です。A集合研修型、B通信教育型、C校内研修型、D疑問解消型の4種類から選択できます。これまで「A集合研修型」を3回実施してきましたが、参加者から好評だったため、第4回の追加開催を決定いたしました。開催日は12月23日(水)です。テーマは上記のとおりで、個々の児童生徒とのよりよい接し方を身に付けたい方にお勧めです。申込み方法等の詳細は、「令和2年度 第4回教員基礎研修の開催について」(令和2年11月24日付、教教育第492号)を御覧ください。

### 「A集合研修型」受講者にインタビュー

第2、3回に参加した荏田西小学校 芦田教諭に参加した感想を聞いてみました。



Q：これまでに参加した研修との違いはありましたか？

A：会場ですら講義を受けるという研修が多い中、本研修では、講義部分はeラーニングであらかじめ視聴し、事前に作成したワークシートを基に、様々な学校の先生方と、ひたすらその回のテーマについて話し合います。ここがこれまでの研修と大きく違うと思いました。

Q：参加してよかった点は？

A：他校の先生方の考えや、指導の手立てを直接聞けたり、ファシリテーターの方が寄り添いながらアドバイスしてくださったりしたことが嬉しかったです。自分の学校のよさや他校との違いも改めて発見できましたし、同世代の先生方と、とにかく活発に話し合えたと思いました。

Q：自身の成長や「セルフ・マネジメント」につながったと思えた点は？

A：今まで、意見を発表しなければいけない研修が苦手でしたが、事前にワークシートに自分の意見や考えを整理しておけるので、それを頼りに発言することができましたし、ファシリテーターの方が適切に声を掛けてくださったので、自分を含め、メンバーの誰もが主体的に自分の意見や考えを言うことができていたと思います。

Q：最後に先生方が「私も参加してみようかな？」と思っただけのメッセージをお願いします

A：教員基礎研修は、集合研修ばかりでなく、eラーニングコンテンツも充実しています。私はちょっとした隙間時間を利用して、ほぼすべてのコンテンツを見ましたが、中でもお奨めはアドバイス編の「時短テク PC 操作編」です。苦手なパソコン操作でしたが、ちょっとしたコツで、時間も労力もこんなに節約できるのだと分かり、eラーニングで学んだことを早速日々実践しています。他にも役立つコンテンツがたくさんありますので、ぜひ皆さんも視聴してはいかがでしょうか？

## eラーニングができる環境づくり

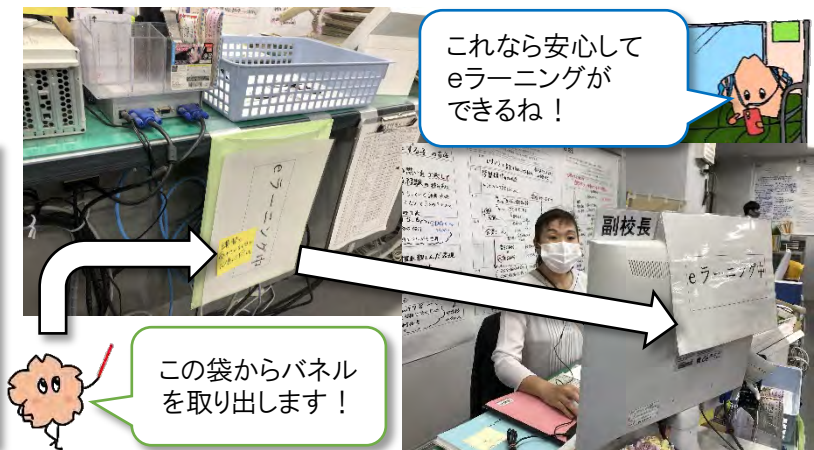
コロナ禍において、多くの研修がeラーニングで行われるようになり、教員基礎研修のコンテンツもeラーニングで配信しています。移動時間がなく、時と場所を選ばないeラーニングは大変便利な反面、「職員室でeラーニングをしにくい」、「行っている最中に他の業務が入り集中できない」等の声も聞いています。

そこで、荏田西小学校ではどのような環境づくりを行っているかについて遠藤校長先生に伺ってみました。

遠藤校長から



eラーニングに取り組むやすい環境づくりを行うため、4月から(右写真)のような取組を始めています。eラーニング中であることの周知がしやすく、周りの教職員の理解も進みました。



## アイ・カレッジ コーナー

11月1日(日) 令和2年度 よこはま教師塾「アイ・カレッジ」が開講

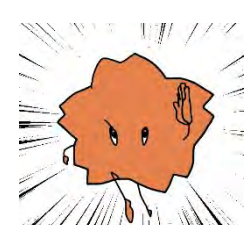
平成23年度から実施している よこはま教師塾「アイ・カレッジ」が、10期目を迎えました。令和2年度は、107名の塾生を迎え、11月1日に開講しました。今年度の開講にあたり、「横浜市 人材育成指標」に基づいたカリキュラム編成を行いました。塾生は「教職の素養」「専門性(授業力・児童生徒理解)」「マネジメント」の資質・能力の中でも、特に教員としての使命感や意識の醸成と基本的な知識・技能の習得を目指します。今後、養成・育成だよりの中で、定期的に「アイ・カレッジ」通信を掲載し、アイ・カレッジの活動や塾生の成長の様子などを発信していきます。また、横浜市内の多くの学校に塾生の実践的な学びの場を提供していただき、アイ・カレッジの活動の一つであるKTP(教師体験プログラム)を今期も行なってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

11月1日は「開講にあたって」の講座の中で塾長である小椋 歩教育次長の講話をいただきました。教師という仕事のすばらしさややりがい、教師を目指す者がもつべき情熱について、塾長御自身の教員時代の経験を交えてお話してくださいました。多くの塾生が塾長の熱いメッセージに頷き、真剣なまなざしを向けていました。

次回は、各講座の様子をお伝えします。



小椋 歩 教育次長





# 教職員養成・育成だより 第42号



これまでの「大学連携だより」を「教職員養成・育成だより」として名称変更し、大学連携の情報に加え、今後は、教職員の研修等の様子についても伝えしていきます。

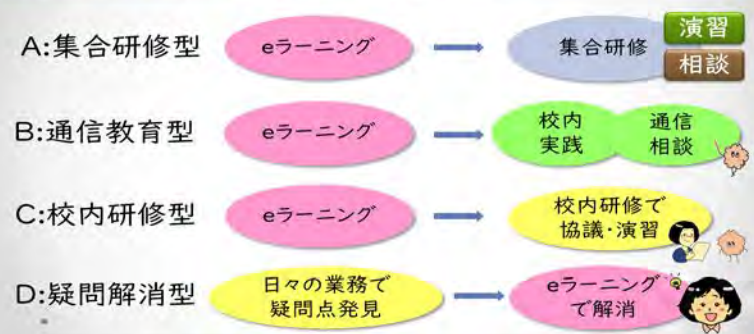
令和2年10月2日発行

横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

## 新設「教員基礎研修」は様々な形で利用されています！

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、教職員育成課では、集合研修だけでなく新しい研修の在り方を検討し、教員一人ひとりの状況に合わせてフレキシブルに受講できる研修として「教員基礎研修」を7月に開設しました。「横浜市 人材育成指標」の柱である、自らの資質・能力を分析し、振り返り、成長していこうとする「セルフ・マネジメント」の考え方のもと、自分に必要な内容を、学びやすい方法で研修し、教員としての資質・能力を更に高めていくことを目的としています。

どのように学ぶ？ ～4つの研修パターン～



今回は、左図にある4つの学び方のうち、集合研修型と校内研修型を活用した方々の声を紹介します。

この記事を読んで、少しでもイメージがわいたら、集合研修に参加したり、この研修を必要としている先生方に参加を勧めたりしてみてください。また、校内研修型は、校内研修の担当者やメンター長等の方々も参考にしてみてください。

## ★校内研修型を取り入れた 豊田小学校の取組★

今年度、教職員育成課では人材育成指標の活用及び校内 OJT の充実に向けて、要請訪問を行っています。今回は、教員基礎研修の動画コンテンツを活用し、メンター研修を実施した豊田小学校の取組を紹介します。



研修を企画・立案したメンター長は、「学校が再開し、子どもたちとの関係をしっかりとつくっていききたい。どのように学級経営を進めていけばよいか、みんなで考えたい。」という思いをもっていました。そこで研修のテーマを「学級づくり」とし、研修の冒頭で10分程の動画を視聴し、動画の視点に基づいて、学級経営の課題を出し合い整理しました。そして、先輩教員が後輩の教員の課題に対し、具体的な解決策を提示したり、自分が日々大切にしている工夫を伝えたりしました。最後には、参加した全員が「明日から実践すること」を宣言し合い、研修を終えました。

共通の動画を視聴することで、協議の視点が明確になり、短い時間の中で充実した研修を実施することにもつながります。また、教員基礎研修の多様なコンテンツを活用することで、校内研修に参加する一人ひとりのニーズに応じた研修を組み立てることが容易にできます。豊田小学校 垣崎校長先生は、「今後も、より自律的に学び続ける教職員を目指して、積極的に教員基礎研修を活用し、校内研修の充実を図っていききたい」と語っていました。

共通の動画を視聴することで、協議の視点が明確になり、短い時間の中で充実した研修を実施することにもつながります。また、教員基礎研修の多様なコンテンツを活用することで、校内研修に参加する一人ひとりのニーズに応じた研修を組み立てることが容易にできます。豊田小学校 垣崎校長先生は、「今後も、より自律的に学び続ける教職員を目指して、積極的に教員基礎研修を活用し、校内研修の充実を図っていききたい」と語っていました。

## ★集合研修型もいよいよ開催 第1回は「学習指導・学習評価」★

8月27日(金)第1回目の集合研修を開催し、25名の参加がありました。この日のテーマは「学習指導・学習評価」で、小学校教員は学習指導全般、中学校教員は主に学習評価についての協議を行いました。

当日会場でeラーニングを視聴する方は15時15分に集合。また、事前にeラーニングを行った方は15時40分に集合し、全員そろった時点で協議をスタートしました。各グループ3、4名で、グループに1名ずつファシリテーター(育成課指導主事・指導教官)が入り、活発な協議を行いました。少人数であったため、一人ひとりが発言できる機会も多く、主体的に学ぶことができていました。また、日頃の悩みを語る方もいて、ファシリテーターから助言をもらったり、グループのメンバー同士で助言しあったりしていました。

研修最後に設定した約20分間の相談タイム(自由参加)では、多くの方々が各自のもつ課題や悩みをファシリテーターに相談していました。

このような協議・相談メインの研修が、受講者にとって満足度が高く、その後、さらに学び続けたいと思う動機付けとなっていることが次のアンケートから分かりました。

### アンケート結果より

#### ① 事前のeラーニングについて

○事前eラーニングで学習しておくことで、協議の始めから、メンバー全員が内容について理解が深まっている状態だったので、協議のスタートがスムーズでした。そのおかげで活発な意見交換ができたと思います。

○事前にeラーニングで講義の部分を視聴できていたので、集合時間が遅く、児童を帰してから花咲研修室に向かうことができたのでとても助かりました。このスタイルの研修がこの先も続いてほしいです。



#### ② 少人数グループ協議について

○各グループにファシリテーターの先生がついてくださったので、話しやすかったです。

○このような、何でもお聞きできる研修は本当にありがたかったです。

○悩みに沿って研修が進んでいくので、主体的に取り組み、得るものが大きい研修でした。

○日頃、忙しくてゆっくり悩みを相談する時間がなかったので、自分の気持ちを言葉にできたことと、いろいろなアドバイスを聞いたことが良かったです。



研修参加者は、一人ひとりが主体的に協議に参加し、他の参加者との対話から多くを学んでいました。また、ファシリテーターからの助言に真剣に耳を傾け、聞き流さないように熱心にメモを取っている姿も印象的でした。「ここで学んだことを、早速、明日から実践しよう。」という熱意にあふれさわやかな表情で研修室を後にされていました。

**※第3回集合研修〔10月22日(木)「教育的ニーズに対応した指導・支援」〕は、現在申込み受付中です。皆様のご参加をお待ちしています！**



# 教職員養成・育成だより 第41号

これまでの「大学連携だより」を「教職員養成・育成だより」として名称変更し、大学連携の情報に加え、今後は、教職員の研修等の様子についても伝えしていきます。

令和2年7月28日発行  
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

## 新しいスタイルの研修「教員基礎研修」を開設します！

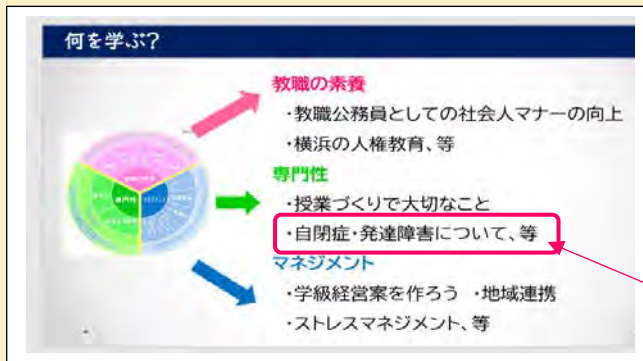
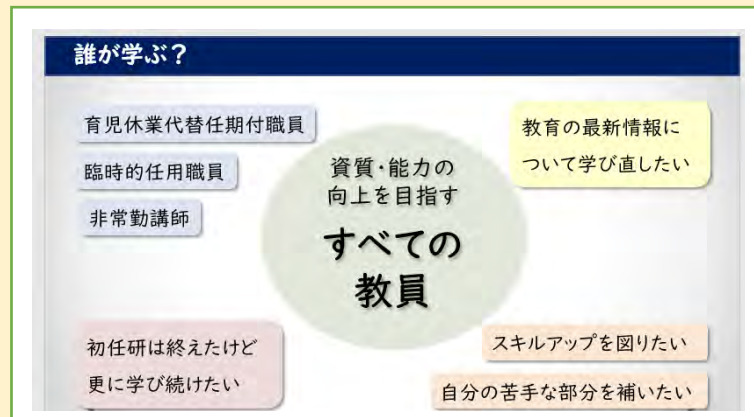
令和2年度のスタートは、新型コロナウイルス感染症の影響で、当初予定していた集合研修のほとんどがeラーニングでの実施となりました。この状況を踏まえ、教職員育成課では、集合研修のみに頼らない新しい研修の在り方を検討し、教員一人ひとりの状況に合わせてフレキシブルに受講できる研修として「教員基礎研修」を開設します。

令和2年3月に改訂した「横浜市 人材育成指標」では、自らの資質・能力を分析し、振り返り、更に成長していこうとする「セルフ・マネジメント」の考え方を柱にしています。「教員基礎研修」では、この考え方にに基づき、自身に必要な内容を、自身にとって学びやすい方法で研修し、教員としての資質・能力を更に高めていくことを目的としています。本研修の三つの特徴を御紹介します。

### 特徴① 対象は全ての教員

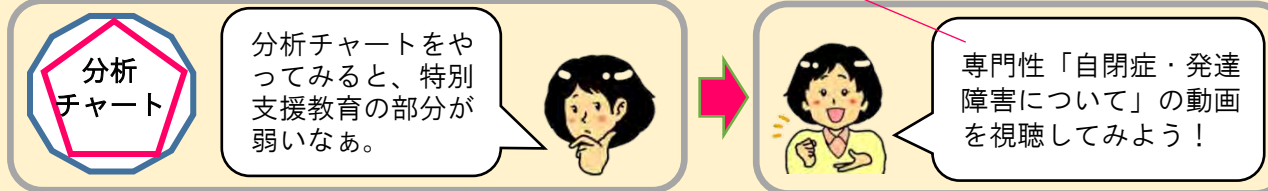
「教員基礎研修」は、「初任者研修」「中堅教員研修」のように、対象者があらかじめ決まっていません。

右の図のように、「学びたい」「力をつけたい」と思う全ての教員が受講可能です。教員としての資質・能力を向上させたいという意欲がある方々であれば、どなたでも受講することができます。



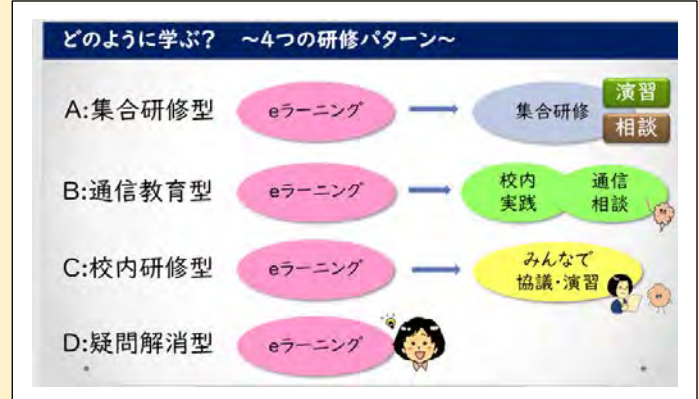
### 特徴② 自身の状況に合わせて内容を選択

「教員基礎研修」の内容は、「人材育成指標」とリンクしており、分析チャートの結果に表れた、自身の強み・弱みを把握した上で、強みを更に向上させるための内容、弱みを補うための内容、これから伸ばしていきたい分野の内容等、自身の目標達成に必要な内容の研修を、自分で選択することができます。



### 特徴③ 自身の状況に合わせて研修方法を選択

これまでの研修は、研修の日時、研修場所があらかじめ指定され、決められた内容を受講するパターンが主でした。しかし、「業務が忙しく、なかなか研修に出られない。」「知りたい内容を今すぐ知りたい。」などの声をふまえ、右の図のように4つの受講パターンを用意しました。4つの方法とも、講義の部分は、各自でeラーニングを受講します。その後どのように研修を進めるかは、自分で選択することができます。B・C・Dは、研修場所に集合しなくても校内で実施可能なタイプです。



A 集合研修型は、あらかじめeラーニングを実施したのち集合研修に参加し、演習や相談活動を行います。「演習を通して幅広く意見交換をしたい。」「個人的な相談に乗ってほしい。」という人などにお勧めです。

B 通信教育型は、個人で実施できる研修パターンで、「忙しくて研修場所に行く時間が取れないので校内で学びたい。」というみなさんにお勧めです。右の図(B通信教育型)のワークシートに沿って自身でeラーニングを実施し、研修を進めます。進める上での**ヒント**がワークシートに細かく記載してあるので、日常の仕事を通して、一人でも安心して研修を進めることができます。疑問点などが生じた場合は、電子フォームで質問・相談すると、後ほど指導主事等から回答が届きます。

C 校内研修型では、校内研修の際にすぐに利用できる動画とワークシートを用意しています。研修を進める手順や話し合いのテーマなどもワークシートに具体的に記載されているので、初めて研修担当になった方でも、自信をもって研修を進めることができます。

D 疑問解消型は、ベテランの先生等からのアドバイスや事例をまとめた動画を視聴し、日々の業務における疑問を解消するものです。短い動画なので隙間時間に少しずつ視聴できます。

B 通信教育型ワークシートの一例



受講の仕方、eラーニングの案内、ワークシート等の詳しい説明は、教職員育成課のYCANページをご覧ください。 <http://inwl.office.ycan/b/ky/ikusei/20200512111154.html>

**みなさんが、今学びたいこと、ピッタリ合う受講の仕方がきっと見つかります。積極的に利用して、教員としての資質・能力を向上させましょう！**

★「教職員養成・育成だより」はYCAN教職員育成課ページから、PDF版をダウンロードできます。各校におかれましては、教職員の皆さんへの配付や校内での掲示等、情報共有への御協力をお願いいたします。